

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科予防処置論Ⅳ (Oral Prophylaxis Ⅳ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	渡辺 理紗・山田 和代
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	60	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時間 限	水曜 3・4限

【授業の学習内容】 歯科衛生士の臨床現場では、歯科医師から包括的に支持を受け、任された歯科衛生業務において、自ら考え歯科衛生過程を展開していくことが必要となる。臨地臨床実習が進行している中での歯科衛生過程の学び直しと実践を目的として本科目を実施する。相互実習を主体とし、歯科衛生過程の実践と、その症例発表を実施できるようになる。 ※実務者経験：大学病院、総合病院にて周術期口腔機能管理（歯科保健指導、歯科予防処置）を中心に実務経験。現在に至る。
歯科衛生過程のプロセスを理解し、実践する。 ・ アセスメントを実施し、問題点を明確化する。 ・ 歯科衛生介入計画を立案する。 ・ 歯科衛生評価を実施し、新たな計画を立案する。 ・ 症例全体を書面化し、発表する。 ・ 発表を通じて、他者からの評価を受け、改善策を立案する。

授業計画・内容			
1回目	科目ガイダンス / 歯面研磨についての復習をする		
2回目	相互実習：歯面研磨を実施する		
3回目	パワースケーラーについて復習する		
4回目	相互実習：超音波スケラーを用いてスケーリングを実施する		
5回目	相互実習：エアスケラーを用いてスケーリングを実施する		
6回目	歯面清掃機について復習する		
7回目	相互実習：歯面清掃器を相互で実践する		
8回目	相互実習： 情報収集－1 医療面接・口腔内診査を実施する		
9回目	情報の解釈分析から歯科衛生診断を実施する / 優先順位の高いものから歯科衛生介入計画を立案する		
10回目	相互実習： 歯科衛生介入－1 歯科衛生介入を実施する		
11回目	相互実習： 歯科衛生介入－2 歯科衛生介入を実施する/介入後の情報整理・再評価の計画を立てる		
12回目	相互実習： 再評価－1 歯科衛生介入後の再評価を実施する		
13回目	相互実習・ 再評価－2 歯科衛生介入後の再評価を実施する / 歯科衛生計画を評価し、再評価後の問題を分析		
14回目	ケースプレゼンテーションを作成する		
15回目	期末試験		
準備学習時間 外学習	1年次から学んできた歯科衛生過程を実際の症例を通して展開していきます。そのため、歯科衛生過程の基本的な考え方をそれぞれの回の内容を確認し、復習してくることが不可欠です。臨床臨地実習においても指導者がどのように歯科衛生士業務を行っているか常に歯科衛生過程を意識して見学することを求めます。 各回の授業では、歯科衛生過程の各回実習項目の書面化を次の回までの宿題とします。		
評価方法	1. 出席（15%） 2. 授業態度（15%） 3. 課題成果（30%） 4. 期末試験（40%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習が中心であり、2コマ続きで実施します。内容には継続性があり、授業の進行により知識・技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、毎日の予習復習を積極的行ってください。相互実習が中心となります。医療安全に留意してください。2年生までに学んだ知識・技術および関連科目の知識・技術が必要です。復習を行ってから実習に臨んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】			
最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論」、「歯周病学」			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科保健指導論Ⅴ (Oral Health InstructionⅤ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	熊谷あゆみ
学科	歯科衛生科	授業形態	演習	総時間	15	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時 限	木曜 3限
【授業の学習内容】 歯科衛生士の臨床の現場では、患者の抱える問題を解決することが望まれる。それは単純に、悪いところを取り除くというような形で解決できるものではない。そのため、歯科衛生士は歯科衛生過程というアプローチ方法を用いることが期待されている。臨床臨床実習という現場経験を経た3年生が様々な症例に向かい解決するための道筋を見つけるための科目である。 ※実務者経験：保健所、歯科医院、歯科衛生士養成所に20年以上勤務							
【到達目標】 ・歯科衛生介入としての視は保健指導を説明できる ・災害時の歯科保健医療について説明できる ・口腔機能評価を理解し、説明できる ・P D C Aサイクルの重要性を説明できる							
授業計画・内容							
1回目	歯科衛生介入としての歯科保健指導						
2回目	歯科衛生介入としての歯科保健指導・災害時の歯科保健活動の概要						
3回目	国際生活機能分類（ICF分類）と口腔関連のQOL尺度（GOHAI、OHRQL）について						
4回目	全身状態の把握（全身疾患、服薬、認知機能）について						
5回目	オーラルフレイル、口腔機能低下症とその口腔機能評価について						
6回目	地域包括ケアシステム、地域ケア会議の概要を学び、グループワークで演習する						
7回目	国家試験過去問題を用いて、歯科衛生過程の知識を応用し、グループワークと演習を実施する						
8回目	定期試験						
準備学習時間 外学習	この単元は他の科目や臨床に関連した内容を多く含みます。これまでに得た臨床的知識を応用し、対象者にあった歯科衛生士起こり得る問題の解決方法について検討することが重要です。 これまでの授業の復習は必須になります。使用教科書以外に他の教本も使用し、授業に取り組んでください。						
評価方法	1. 定期試験（50%） 2. 授業態度（15%） 3. 課題成果（20%） 4. 出席（15%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格					
受講生への メッセージ	歯科衛生士国家試験の出題基準が変更され臨床の状況設定問題、応用問題が増えた。1つの知識に対して多くの教科が関連してくる。これまで得たものを総合する力が必要となってくる。理解を深めて欲しい。						
【使用教科書・教材・参考書】 最新 歯科衛生士教本 歯科予防処置論・歯科保健指導論他事前に指定された教本、配布されるプリント など							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	歯科診療補助論Ⅶ (Dental AuxiliaryⅦ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	飯岡美幸
学科	歯科衛生科	授業形態	実技	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・ 時限	木曜3・4限

【授業の学習内容】

歯科診療補助論Ⅶでは、在宅や施設での歯科衛生士の役割、摂食嚥下障害を有する対象者への口腔健康管理を行うための知識と技術の習得、災害時の歯科衛生士の役割、周術期での口腔機能管理を通じた歯科衛生士の役割、CAD/CAMシステムについての基礎知識を習得することをねらいとしています。

※実務者経験：1995年より10年間一般歯科で実務経験を積み、その後介護支援専門員として5年間、グループホーム・居宅介護支援事業所で実務経験を積んだ。2012年より歯科衛生士専任教員として「歯科衛生士（教育）」の認定を取得し、歯科診療補助論を中心に学生指導に携わっている。

【到達目標】

(目標①)在宅や施設での歯科衛生士の役割を理解し、歯科訪問診療に必要な基礎知識と高齢者の口腔保健管理、多職種連携について習得する。

(目標②)大規模災害時の歯科保健医療での歯科衛生士の役割を説明できる。

(目標③)CAD/CAMシステムの種類、性質、使用法を関係付けて説明できる。

(目標④)摂食嚥下障害を有する対象者へ効果的な歯科衛生ケアを行うために、誤嚥、窒息時の救急対応に関する知識と技術を修得する。

(目標⑤)周術期口腔機能管理の目的と特徴および実際の口腔管理、口腔ケア方法を説明できる。

授業計画・内容			
1回目	臨床実習で使用頻度の高い器具器材について復習し、理解することができる。		
2回目	①ホームホワイトニング用のカスタムトレー作成のための印象採得・石膏模型作製することができる。		
3回目			
4回目	②ホームホワイトニング用のカスタムトレー作成のための印象採得・石膏模型作製することができる。		
5回目			
6回目	③ホワイトニングの基本概念と技術を理解し、実施、評価を行えるようになる。		
7回目			
8回目	周術期における口腔機能管理：周術期口腔機能管理の概要(対象となる患者、流れ、医療連携)、病態の把握する		
9回目			
10回目	歯科訪問診療における対応：歯科診療時、訪問歯科診療時の流れ、注意点、有病者への配慮および口腔機能管理の実際について説明できる		
11回目			
12回目	口腔・鼻腔気管内吸引と経管栄養①：吸引行為に関する解剖学、生理学について、歯科衛生士が行う吸引に対する法的根拠、吸引（咽頭、鼻腔）の実践する		
13回目			
14回目	CAD/CAMシステム：CAD/CAMシステムの種類、性質、使用法について説明できる		
15回目	大規模災害時の歯科保健医療：歯科救護所の開設・運営、および避難所などへの巡回歯科保健活動について説明できる		
準備学習時間 外学習	毎回、レポートを書いてもらいます。しっかり受講するようにして下さい。		
評価方法	1. レポート (50%) 2. 授業態度 (50%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	歯科衛生士の業務として比較的新しい分野の内容ですが、近年、国家試験にもこの分野の問題が多く出題されています。欠席をせず、予習復習をして意欲的に取り組んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】 教科書：最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」「高齢者歯科学」、歯科衛生士のための全身疾患ハンドブック、歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション(医歯薬出版)			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨地臨床実習Ⅲ (Clinical PracticeⅢ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	臨床実習指導者・専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	45	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	

【授業の学習内容】

- ・学外実習を行います。
- ・各々学生が配置された歯科医院（口腔外科含む）に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。
- ・実習期間は、口腔外科・矯正歯科専門医院各9日間（1日：8時間）

【到達目標】

- ・顎・口腔領域の疾患を挙げ、特徴、診断法、治療法を説明する。
- ・口腔外科診療における歯科衛生士の役割を説明する。
- ・口腔外科患者と歯科衛生士のかかわりを説明する。
- ・口腔病変と全身疾患の関係を概説する。
- ・歯科診療で問題になる基礎疾患と歯科治療時の注意点を説明する。

授業計画・内容

	1) 態度 ・ 時間管理ができる（余裕を持って行動できている） ・ 施設の規則を守れる ・ スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる 2) 言葉遣い ・ 挨拶や返事はきちんとできている ・ 敬語が適切に使えている 3) 身だしなみ ・ 実習衣は清潔かつ適切に着用している ・ 髪はきちんとまとめられている ・ 爪（長さ、マニキュア）、香水（強い香りを発する製品など） ・ 実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4) 知識の習得 ・ 実習前の努力（事前学習など）があった ・ 患者指導（TBI、術後説明など）の場面で正しい情報を伝えた ・ 知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5) 技術の習得 ・ 出来なかったことに対しての向上がみられた ・ 清潔、不潔に配慮して行動ができた ・ 診療に必要な器具、器材の準備ができた ・ 診療に応じたバキューム、ライティング操作ができた ・ 指示されたことを正しく理解し、行動できた 6) 実習日誌・記録 ・ 実習日誌の提出期限は守れた ・ 自身の課題を考察し、適切な目標が挙げられた（目標） ・ 症例を適切に要約し、術式・準備などを記載した ・ 文献や資料を収集し、実習日誌を充実させた ・ 指摘箇所をきちんと訂正した		
準備学習時間 外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。		
評価方法	1.指導者評価（50％） 2.課題提出・成果（50％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床実習指導要綱			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床実習Ⅳ (Clinical PracticeⅣ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	臨床実習指導者・専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	360	開講区分	前期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	8	曜日・時限	

【授業の学習内容】 ・学外実習を行います。 ・各々学生が配置された歯科医院（矯正専門含む）に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。 ・実習期間は、計45日間（1日：8時間） ・学内実習において、歯科衛生士業務について知識・技術を習得する。							
【到達目標】 ・歯科診療所内での多職種連携を円滑に実施する。 ・患者とのコミュニケーションを円滑に実施する。 ・歯科診療所における歯科衛生士業務を部分実施する。 ・治療の流れを理解し、診療の介助を円滑に実施する。							

授業計画・内容			
	1) 態度 ・ 時間管理ができる（余裕を持って行動できている） ・ 施設の規則を守れる ・ スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる 2) 言葉遣い ・ 挨拶や返事はきちんとできている 3) 身だしなみ ・ 実習衣は清潔かつ適切に着用している ・ 爪（長さ、マニキュア）、香水（強い香りを発する製品など） ・ 実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4) 知識の習得 ・ 実習前の努力（事前学習など）があった ・ 患者指導（TBI、術後説明など）の場面で正しい情報を伝えた ・ 知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5) 技術の習得 ・ 出来なかったことに対しての向上がみられた ・ 診療に必要な器具、器材の準備ができた ・ 指示されたことを正しく理解し、行動できた 6) 実習日誌・記録 ・ 実習日誌の提出期限は守れた ・ 症例を適切に要約し、術式・準備などを記載した ・ 指摘箇所をきちんと訂正した ・ 体調管理が出来ている ・ 積極的に実習に参加している ・ 私語なく、実習に集中できた（公私の区別） ・ 敬語が適切に使えている ・ 髪はきちんとまとめられている ・ 清潔、不潔に配慮して行動ができた ・ 診療に応じたバキューム、ライティング操作ができた ・ 自身の課題を考察し、適切な目標が挙げられた（目標） ・ 文献や資料を収集し、実習日誌を充実させた		
準備学習時間 外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。		
評価方法	1. 指導者評価（50%） 2. 課題提出・成果（30%） 3. 患者実習（20%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。 患者実習は、Ⅲ期の臨地実習にむけての大切なステップになります。患者さんへの対応、コミュニケーションの取り方を学んでください。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床実習指導要綱			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨床臨床実習 V (Clinical Practice V)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	臨床実習指導者・専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	45	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	1	曜日・時限	
【授業の学習内容】 ・学外実習を行います。 ・各々学生が配置された歯科医院等（高齢者施設などを含む）に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。 ・実習期間は、計6日間（1日：8時間）							
【到達目標】 ・老年期の加齢による変化を理解する。 ・各種障がいの特徴や病態を理解する。 ・口腔機能向上のためのトレーニングを実施する。 ・全身疾患など高齢期に起こりやすい疾患を理解する。 ・口腔ケアを実施する。							

授業計画・内容			
	1) 態度 ・ 時間管理ができる（余裕を持って行動できる） ・ 施設の規則を守る ・ スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる ・ 体調管理ができる ・ 積極的に実習に参加できる ・ 私語なく、実習に集中できる（公私の区別） 2) 言葉遣い ・ 挨拶や返事はきちんとできている ・ 敬語が適切に使えている 3) 身だしなみ ・ 実習衣は清潔かつ適切に着用している ・ 髪はきちんとまとめられている ・ 爪（長さ、マニキュア）、香水（強い香りを発する製品など） ・ 実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4) 知識の習得 ・ 実習前の努力（事前学習など）があった ・ 知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5) 技術の習得 ・ 出来なかったことに対しての向上がみられた ・ 指示されたことを正しく理解し、行動できた 6) 実習日誌・記録 ・ 実習日誌の提出期限は守れた ・ 指摘箇所をきちんと訂正した		
準備学習時間 外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。		
評価方法	1. 指導者評価（50%） 2. 課題提出・成果（50%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床実習指導要綱			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	臨地臨床実習Ⅵ (Clinical PracticeⅥ)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	臨床実習指導者・専任教員
学科	歯科衛生科	授業形態	実習	総時間	225	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	5	曜日・時限	
【授業の学習内容】 ・学外実習を行います。 ・各々学生が配置された歯科医院等に出向き、施設に勤務している歯科医師や歯科衛生士の指導を受け、施設における歯科衛生士の位置づけや役割を学ぶとともに、施設で歯科衛生士がどのように対象者に歯科衛生士業務を行っているかを学ぶ。 ・実習期間は、計29日間（1日：8時間） ・臨床実習終了時に、学内発表を行う。							
【到達目標】 ・学内および臨地実習Ⅰ、臨床実習ⅠⅡで習得した知識・技術を応用し、対象者に合わせた歯科衛生士業務を実践する。 ・患者を担当し、その個性に合わせた歯科衛生過程を実施する。							

授業計画・内容			
	1) 態度 ・ 時間管理ができる（余裕を持って行動できている） ・ 施設の規則を守れる ・ スタッフと円滑なコミュニケーションがとれる 2) 言葉遣い ・ 挨拶や返事はきちんとできている 3) 身だしなみ ・ 実習衣は清潔かつ適切に着用している ・ 爪（長さ、マニキュア）、香水（強い香りを発する製品など） ・ 実習のルールに従った身だしなみ（ヘアカラー、まつ毛、コンタクトなど） 4) 知識の習得 ・ 実習前の努力（事前学習など）があった ・ 患者指導（TBI、術後説明など）の場面で正しい情報を伝えた ・ 知識不足に対しての努力（質問、調べ学など）があった 5) 技術の習得 ・ 出来なかったことに対しての向上がみられた ・ 診療に必要な器具、器材の準備ができた ・ 指示されたことを正しく理解し、行動できた 6) 実習日誌・記録 ・ 実習日誌の提出期限は守れた ・ 症例を適切に要約し、術式・準備などを記載した ・ 指摘箇所をきちんと訂正した ・ 体調管理が出来ている ・ 積極的に実習に参加している ・ 私語なく、実習に集中できた（公私の区別） ・ 敬語が適切に使えている ・ 髪はきちんとまとめられている ・ 清潔、不潔に配慮して行動ができた ・ 診療に応じたバキューム、ライティング操作ができた ・ 自身の課題を考察し、適切な目標が挙げられた（目標） ・ 文献や資料を収集し、実習日誌を充実させた		
準備学習時間 学外学習	学内で学んだ知識や技術を統合した実習となるため、既修得の分野について復習してから実習に臨んでください。実習の記録として実習日誌を作成し（評価対象となります）、実習施設と学校への提出を行ってください。		
評価方法	1. 指導者評価（50%） 2. 課題提出・成果（30%） 3. 学内発表（20%）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	実習施設は学校と契約を交わし、愛知県に登録された施設で実施します。		
【使用教科書・教材・参考書】 臨床実習指導要綱			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス							
科目名 (英)	口腔保健学特論演習 (Oral Health Sciences Exercises)	必修選択	必修	年次	3	担当教員	長谷川 純代
学科	歯科衛生科	授業形態	演習	総時間	120	開講区分	前期/後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	8	曜日・時限	木曜・1限
【授業の学習内容】 本科目では、基礎から専門分野まで歯科衛生士業務に関連する科目を再度学びなおすことにより、知識と技術に関連付け、総合的な知識の整理を行います。臨床臨床実習で体験した経験を踏まえ、臨床に有用な知識・技術の修得と国家試験に合格できる実力を得ることを目指します。							
【到達目標】 前期は、分野別に国家試験問題を中心に演習を行うことにより、歯科衛生士に求められている知識の深さを知ること、臨床臨床実習の学びに反映できるようにする。 後期は、臨床臨床実習で得た現場の経験を統合し、総合的な知識の整理を行う。 評価として、後期に卒業試験において6割以上の点数を獲得することで単位認定となる。							
授業計画・内容							
1回目	第35回歯科衛生士国家試験に向けて(現状把握と第34回国家試験について)						
2回目	第34回歯科衛生士国家試験AM 確認テスト と 調べ学習 (人体の構造と機能、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、臨床歯科医学)						
3回目	第34回歯科衛生士国家試験PM 確認テスト と 調べ学習 (人体の構造と機能、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み、臨床歯科医学)						
4回目	第34回歯科衛生士国家試験AM 確認テスト と 調べ学習 (歯科衛生士概論、歯科予防処置論、歯科保健指導論、歯科診療補助論)						
5回目	第34回歯科衛生士国家試験PM 確認テスト と 調べ学習 (歯科衛生士概論、歯科予防処置論、歯科保健指導論、歯科診療補助論)						
6回目	臨床歯科医学「保存修復学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
7回目	臨床歯科医学「歯内療法学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
8回目	臨床歯科医学「歯周病学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
9回目	臨床歯科医学「歯科補綴学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
10回目	臨床歯科医学「口腔外科学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
11回目	臨床歯科医学「歯科矯正学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
12回目	臨床歯科医学「小児歯科学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
13回目	臨床歯科医学「高齢者歯科学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
14回目	臨床歯科医学「障害者歯科学」 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
15回目	前期まとめ試験「臨床歯科医学」分野について、110問の試験を行います。 ※点数が6割(66点)に満たない場合は、再試験を実施します。						
16回目	第1回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 8/7実施予定						
17回目	第2回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 9/11実施予定						
18回目	「歯科診療補助論」 保存修復学・歯内療法学・歯科補綴学 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
19回目	「歯科診療補助論」 口腔外科学・歯科矯正学・小児歯科学 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
20回目	「歯科保健指導論」 口腔健康管理 関連 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
21回目	「歯科保健指導論」 口腔機能管理 関連 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
22回目	第3回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 10/16実施予定						
23回目	「歯科予防処置論」 歯周病予防 関連 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
24回目	「歯科予防処置論」 う蝕予防 関連 確認テスト と調べ学習(個別・GW)						
25回目	第4回 模擬試験 ※主要3科目(100問) 11/6実施予定						
26回目	個別面談を実施する(1～3回までの模擬試験の資料を基に、得意分野や苦手分野を明確にし、今後の方針を確認する)						
27回目	第5回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 11/20実施予定 ☆11月で臨床臨床実習が終了 12月より毎日登校へ						
28回～ 36回目	各分野担当講師による科目別特別授業						
37回目	第6回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 12/15実施予定						
38回～ 43回目	各分野担当講師による科目別特別授業						
44回目	第7回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 1/6実施予定						
45回～ 51回目	各分野担当講師による科目別特別授業						
52回目	第8回 模擬試験 ※全分野出題(220問) 1/19実施予定						
53回～ 59回目	各分野担当講師による科目別特別授業						
60回目	卒業試験 ※全分野出題(220問) 2/2実施予定						
準備学習 時間外学習	・分野別の確認テストを適宜行います。事前にその分野の学習をしておくこと。 ・確認テスト後に調べ学習を行います。時間内に終わらなかった範囲は宿題となります。 ・夏休み、冬休みには書き込み式や国家試験問題をベースとした宿題が出ます。						
評価方法	卒業試験(100%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格		単位認定の条件を以下に定める ※後期に行われる卒業試験において6割以上の点数を取得すること			
	受講生への メッセージ	3年間で学んできた知識を整理する科目です。前期では1回1回の授業を大切に、臨床・臨床実習に反映させること。 また後期では、現場で得た技術と知識を統合させ、国家試験に合格できるよう取り組んでください。					
【使用教科書・教材・参考書】		徹底分析！年度別 歯科衛生士国家試験問題集 2026年版(第30～第34回) 徹底攻略！科目別 歯科衛生士 国家試験過去問題集 第2版 基礎科目編 歯科衛生士のための主要3科プラス専門分野問題集 第4版 Complete+DH 歯科衛生士国家試験完全攻略 科目別国家試験解説 2026年版					

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

科目名 (英)	教養演習Ⅲ (Liberal Arts ExercisesⅢ)		必修 選択	必修	年次	3	担当教員	飯岡 美幸
学科	歯科衛生科		授業 形態	演習	総時間 (単位)	15 1	開講区分	前期/後期
コース	昼間Ⅰ部						曜日・時限	木曜2限 or 4限
【授業の学習内容】 ・自分の望むキャリア形成を自ら考え行動できるようにする ※実務者経験：1995年より10年間一般歯科で実務経験を積み、その後介護支援専門員として5年間、グループホーム・居宅介護支援事業所で勤務した。2012年より歯科衛生士専任教員として「歯科衛生士(教育)」の認定を取得し、歯科診療補助論を中心に学生指導に携わっている。								
【到達目標】 ・社会人・医療人としてふさわしい身だしなみとマナーを身につける ・働くことを意識し、自己のキャリアアップを身につける ・自己分析を行い、自己の強みやアピールができる ・自分の将来を意識し、臨地臨床実習や就職活動に取り組むことができる								
授業計画・内容								
1回目	自身が業界で活躍するためのキャリアプランを立てることができる。							
2回目	歯科医院見学のための情報収拾を実施する。							
3回目	自身のキャリアプランにおいて、今後の就職活動のプランを立てることができる。							
4回目	求人票の見方を通して、希望する職場で活躍するために必要な情報収拾の方法を説明できる。							
5回目	履歴書を作成し、客観的に自身の振り返りを行い強みを説明できるようになる。							
6回目	自己分析シートを有効活用し、歯科医院見学の目的・目標を考え、説明できる。							
7回目	現段階での歯科医療の知識を測り、学習の必要性を理解することができる。							
8回目	スポーツ大会を通し、最上級生として、協調性、積極的ともに下級生の見本になるような行動することができる。							
準備学習 時間外学習	自身のキャリア形成が主体となるため、自分で答えを考え導き出すことが必要になります。 必要な場合は課題が出ます。評価対象となるため、復習を怠らないこと。							
評価方法	1. 授業態度 (40%) 2. 課題成果 (30%) 3. 提出物 (30%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F不合格						
受講生への メッセージ	内容には継続性があり、授業の進行により知識、技術が積み重ねられていくため、体調管理に気を付け、予習復習を積極的に行ってください。							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料								

E